

各地で行われたイベント&話題を紹介するコーナーです。

福寿草を地域で守る 為重自治振興区がイベント

3月24日・25日の両日、東城町久代地区で「福寿草まつり」が開催され、福寿草の自生地への公開や地元特産品の販売などが行われました。

約1.5キロにわたって自生する福寿草の紹介と保護を目的に、地元の為重自治振興区が今年初めて企画。訪れた多くの人が、早春のやわらかな日差しを浴びて咲き誇る、黄色いかわいらしい花を写真に収めていました。

為重自治振興区の榎原良三会長は「この地区の福寿草は交配が進んでおらず花も大きい。これだけ群生しているのは全国的にも珍しいと聞く。絶やすことがないように守っていききたい」と話していました。



カメラを手に多くの人が訪れる

健康で元気に暮らすコツを学ぶ 口和で介護予防講演会



渡辺先生による講演会

介護予防事業として、1月から3月にかけて保健福祉キャラバンを口和町内各地区で開催し、3月14日・20日の地元医師による講演会に170人が参加しました。

国原医院の国原源一郎先生は「元気で長生き」と題して、また口和診療所の渡辺将史先生は「寝たきり予防のために」と題して講演し、「自分の体の状態をしっかりと知って、健康管理をしていくことが大切」などと呼びかけました。

身近な先生の説得力のある話を聞き、参加者は「メタボリックシンドロームから介護予防までしっかり学べた」「年をとっても元気に生活していきたい」と話していました。



国原先生による講演会

板橋・実留保育所が統合 敷信みのり保育所が開所式



4月3日、板橋保育所と実留保育所の統合保育所として整備した、敷信みのり保育所の開所式が行われました。

新しい保育所は、入所希望児童の受け入れ態勢の拡大、低年齢保育・延長保育などの要望に対応するため、平成17年度から事業を着手し、鉄筋コンクリート造り平屋建て、延床面積926.84㎡の園舎と、園庭、駐車場などを整備し、このたび完成しました。

開所式と入所を祝う会に出席した0歳から5歳児までの90人の園児は、多数の来賓、保護者の前で少し緊張していましたが、真新しい施設に期待を膨らませていました。

この保育所は、市内で4カ所目の公設民営化保育所として、株式会社敷信村農吉が運営管理します。



開所式で笑顔いっぱいの子どもたち

代々伝わるひな人形を展示 春爛漫東城まちなみ春まつり

4月14日から22日まで、旧暦のひな節句を祝う「春爛漫東城まちなみ春まつり」が開催されました。

今年で2回目を迎え、東城町中心部の商店街約500mにわたって55店が、代々伝わるひな人形を展示しました。中には普段は見ることのできない約250年前の「享保ひな」や三次人形、手作りの「つるしひな」なども飾られ、観光客は街中を散策しながら写真に収めていました。



14日には、徳了寺本堂で長崎在住のソプラノ歌手「高橋智子さん」と、地元のコーラスグループ「東城コールエコー」のコンサートが行われ、「春よ」「蝶々夫人」など14曲を披露しました。

訪れた人は「なぜこの時期にひな人形なのかと思っていたが、ちょうど見頃をむかえた桜と一緒に春を楽しむことができた」と喜んでいました。



ソプラノ歌手の高橋さん

庄原中学校で給食がスタート 庄原学校給食共同調理場が完成

庄原小学校、東小学校、庄原中学校の給食をまかなう庄原学校給食共同調理場が西本町に完成し、4月から約1200食の調理が始まりました。

この調理場は、庄原小学校と東小学校の調理場の老朽化問題と、保護者から「庄原中学校でも給食を実施してほしい」という強い要望に応えるため、新たに建設しました。

4月12日、初めて庄原中学校で給食が行われ、給食当番は戸惑いながらも手際よく配膳し、順調にスタートしました。久しぶりの給食に少し興奮ぎみの生徒たちは「小学校の給食を思い出し、懐かしい」と言いながら笑顔で食べていました。

来年度は、西城中学校でも給食が始まる予定で、市内の全ての小・中学校で給食を実施します。



共同調理場



久しぶりの給食を楽しむ庄原中の生徒

高齢者の元気を育み10年

三坂老人会が記念行事



三坂老人会の役員

3月28日、西城の三坂老人会が元気づくりの活動を始めてから10年目を迎え、健康講座やゲーム、温泉入浴で10周年を祝いました。

この10年間、定木達雄会長を中心に毎月の定例会のほか、農閑期の毎週水曜日には、地域の高齢者の元気づくりや親睦を目的とした集会を開いてきました。また、冬場の活動として、地域の伝統を生かそうと平成11年からしめ縄作りに励み、地元の商店で販売し、これまでに3180個を販売。売上金を会の運営や地域の伝統行事などにあて、自立した活動を続けてきました。

定木会長は、「みんなに好かれる年寄りになるという事を約束に、これからも認知症予防や情報交換を続けていきたい」と話していました。

男性の元気づくり講座

しあわせ館で「輝☆OYAJI」

西城支所保健福祉課が3月23日、西城保健福祉総合センターしあわせ館で、「輝☆OYAJI（ひかるおやじ）」の集いを開催しました。

これは、団塊世代を中心とした50代、60代の男性対象の元気づくり事業で、職場での自分、家庭での自分を脱ぎ捨てて、本来の自分を開花させるきっかけとなるよう企画しました。



コーヒーを飲みながら、リラックスした雰囲気話し合う

コーディネーターとして、旧西城町の保健福祉総合計画の策定に関わった(有)人間科学研究所の志賀誠治所長を招き、「自分を見つめる、自分を知ること」をテーマに始まりました。

フリップ方式ディスカッションを取り入れ、「こう見えても実は私○○なんです」、「20代、30代の自分を一言で表すと?」、「40代、50代の自分を一言で表すと?」、「これからの自分のキーワードは?」など、全員がフリップに記すことで議論を進めていきました。

初めての試みで、参加者は5人と少なかったのですが、話題は地域づくり、まちづくりにまで発展し、予定時間を30分以上超過するほど盛り上がった有意義な集いになりました。参加者の一人は、「今まで着ていた鎧を脱いで自分を再発見した気がする」と話していました。

「輝☆OYAJI」の申し込み・問い合わせは西城支所保健福祉課（☎0824-82-2202）まで。

まるで黄色い絨毯!

総領で2haの菜の花が満開



4月、総領町五領地区で菜の花が満開となり、地域住民とドライバーは黄色い絨毯を広がったような光景を楽しみました。

平成15年度から五領自治振興区が「イエロープロジェクト」と名づけて、農地の荒廃を防ぎ、景観をよくしようと、地域内の約2ヘクタールの遊休農地などに、地域の交流も兼ねて菜の花を栽培しています。

4月上旬から約1カ月間、美しい景観を楽しんだ後、6月には菜種の収穫を行い、搾油して一番搾りの菜種油「菜種の雫」を作り、販売しています。また、総領地域のイベントでは手作りコロツケを「菜種の雫」で揚げて販売し、毎回好評を得ています。

今後は菜種油としての販売だけでなく、菜種油を利用した新商品の開発も予定しています。

高暮自治振興区が橋の渡り初め

松原橋・古川橋開通式



橋の渡り初め

3月18日、高野町高暮で、一般県道下門田泉吉田線松原橋・古川橋の開通式（高暮自治振興区主催）が開催されました。

高暮地区で橋の渡り初め行事が行われるのは、高暮ダム completionによる藤淵橋以来、実に57年ぶり。

式では、田中五郎区長が「かつては、交通の難所として、洪水の度に橋が流されたり、人身事故が相次いだりしたが、本日の開通式を迎える事ができ地域の夢がかなった。橋ができて本当にうれしい」と主催者を代表してあいさつしました。

松原橋で関係者によるテープカットの後、天狗姿の露払いに続き、地元を代表して牧原茂朗さん一家3世代夫妻を先頭に、参列者が順次松原橋、古川橋の渡り初めを行いました。

その後、関係者による記念植樹も行われるなど、地域の記念すべき「はれの日」となりました。

中国山地豊かな写真展

里山のさまざまな表情を写す

4月1日から25日まで、比和文化会館展示室で第18回中国山地豊かな自然写真コンテスト入賞作品の写真展が開催されました。

この写真コンテストに、120人から264点の応募があり、入賞した48点を展示。どの作品も中国山地のさまざまな表情を写し出し、自然の美しさ、やさしさ、厳しさを表現していました。

来場者は、「昔は身近にあった自然がなくなってきている。すぐにでも写真を撮りに行き、残しておきたい気持ちになった」と話していました。

この写真展は、次の日程で巡回展を予定しています。

- 4/27～5/22 ひろしま県民の森公園センター
- 6/19～7/20 広島みどり信用金庫本店ロビー
- 8/1～8/31 食彩館しょうばら ゆめさくら
- 10/6～10/31 国営備北丘陵公園



作品を通して中国山地の良さに触れる来場者

地域資源を再発見し、魅力を発信

岡大内自治振興区がマップ作製



マップの完成を喜ぶ役員

高野の岡大内自治振興区が地域の魅力を伝えるカントリーウォークマップを作製しました。

カントリーウォークは、農村をのんびり歩いて、農村の自然や農業の営み、歴史・文化など、農村そのものを楽しもうとするもので、近年国内外で静かに広がりを見せています。

地域住民は、デジカメや地図を片手に地域内を歩いたり、ワークショップを開いたりして、地域資源を再発見しながら地域の魅力をまとめました。マップには岡大内地域の史跡や山野草、おすすめの景観ポイントなどを紹介。庄原市活動促進補助金の交付を受け500部印刷しました。

糸原秋信区長は「マップづくりを通して再発見した地域の良さを継承していきたい。また、都市住民との交流にも活用し、地域の魅力を広く発信していきたい」と話していました。